

平成 24 年 11 月 6 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄
(コード 2388 大証 JASDAQ 市場)
問合せ先 取締役 庄司 友彦
(TEL 03 - 6225 - 2207)

カンボジアでのファイナンス事業に関する記者会見のお知らせ

～カンボジア商務大臣が会見に出席、新事業の経済発展寄与に期待～

当社グループでカンボジア王国においてファイナンス事業を行う GL FINANCE PLC. (以下 GLF) は平成 24 年 10 月 26 日、同社の事業の本格的始動を機に記者会見を行いました。会見にはカンボジアの商務担当相の上級大臣を努めるチャム・プラシッド閣下が同席されスピーチを頂くなど、同社の事業にとって記念すべき一日となりました。同社の発表したプレスリリース、そしてチャム・プラシッド大臣および GLF の President の此下益司のスピーチ内容を以下にご紹介いたします。

この度の記者会見はプノンペン市内にある GLF 本社で行われ、GLF の事業の本格的始動とともに、同社の事業展開について説明がなされました。会見においてはカンボジア王国の上級大臣であり商務担当大臣でもあるチャン・プラシッド閣下が来訪され、同国での最初のオートバイファイナンスリース事業を手がける GLF が事業を通じてカンボジア国内経済と国民生活の発展に大きく寄与することを期待すると、暖かくかつ力強い言葉がかけられました。



写真上：会見に出席されスピーチいただく商務大臣 Cham Prasidh 閣下（写真中央）と GLF の此下益司 President (写真右)

同社は本年 5 月の事業開始以降、事業基盤を順次整備してまいりました。本年 9 月以降は首都プノンペンを中心として営業拠点を急速に立ち上げ、2012 年 10 月中には国内のオートバイ販売市場の 45% を占める首都圏での 11 拠点からなるネットワークを確立するなど、同国経済の発展に寄与するべく積極的な投資を行っております。会見には多くのメディアが詰めかけ、新たな産業のスタートに強い関心が寄せられるとともに盛んに質問がされるなど熱気に満ちた会見となりました。



◆ GL FINANCE PLC.発表のプレスリリース（日本語訳）

本日、カンボジア王国の上級大臣であり商務担当大臣を務めるチャン・プラシッド閣下が同国初のファイナンシャルリース会社、GL FINANCE PLC. (GLF) の記者会見に出席されました。GLFは新たなファイナンスを通じて、カンボジアの消費者にとって非常に高いニーズのあるオートバイを「Now and Easy」に手に入れるサービスを提供、カンボジアの人々の生活の質を高めるという重要なミッションをもって事業を進めております。

本社での記者会見でGLFのPresident 此下益司は、"チャム・プラシッド閣下が当社の記者会見に参加いただけたことは、当社にとって最高の荣誉であると述べました。

GLFは、2012年3月14日に商務省に登録、2012年5月17日にはカンボジア中央銀行からファイナンシャルリース事業ライセンスを取得しております。その後カンボジア国内においてホンダオートバイの独占製造販売権を持つN.C.X Co., Ltd と業務提携を行い、正式にオートバイファイナンシャルリース事業を開始しました。



GLFの使命は、オートバイファイナンスのシステムを通じて、急速な成長段階にあるカンボジアの消費者がオートバイを「Now & Easy」に手にするサービスを提供して、人々の生活を向上させることにあります。また人々の生活を向上させるだけでなく、同時にカンボジアの経済の発展を加速させる役割を果たすものです。

一定の頭金を用意するだけで、当社のお客様は新車のオートバイを今すぐ容易に手にすることができます。お客様が夢にみた新しいオートバイのある生活を始めることができるのです。これまでカンボジアにはこのようなサービスは無かったからこそ、多くのお客様にとって夢でした。GLFはお客様のオートバイの登記から保険まで、オートバイに関する一貫したサービスを提供していきます。

GLFは現在、プノンペンとカンダル地方にあるホンダの正規ディーラー8店とNCXの直営店の2店に営業所を持っています。具体的には、プノンペン中心のMonivong通りとプノンペン空港の向かいにあるNCXの直営店、ホンダ正規ディーラー、HONDA CHHOEM NEANG、HONDA CHEA SAMBO、HONDA CHEUNG SONGHY、HONDA VAN SEU HENG、HONDA CHHAY LY、HONDA POK PHALRA、HONDA HENG SAMBそしてHONDA LY KONGです。GLFはプノンペン市内の最後のホンダ正規ディーラー、HONDA SOK HYでの営業拠点の開設予定も説明しました。それによりGLFは10月末でプノンペンおよびその周辺地域を全てカバーすることになります。2013年にはGLFはカンボジア全土での営業ネットワークを確立する予定です。



記者会見には若く希望に満ちたGLFの社員が集う

以上

◆ GL FINANCE PLC. President 此下益司のスピーチ

本日はこの場に上級大臣であり商務大臣であるチャム・プラシッド閣下、元日本大使である篠原様、HONDA NCX のファイ様、そして数多くの大切なお客様をお迎えいたしましたことを嬉しく思っております。皆様ようこそお越しくださいました。

まず最初にカンボジアの全ての方々へ、この度国王の父君であるシアヌーク殿下の逝去に対して、心よりお悔やみを申し上げたいと思います。殿下の英知と存在を失うことは多くの方にとり深い痛みであることでしょう。

その一方、嬉しい話といえば、本日、この GL FINANCE PLC.にとって最も喜ばしい日に、チャム・プラシッド大臣閣下がこの場にお越しただけしたことといえるでしょう。

ちょうど1年前の2011年10月25日、私はカンボジアに来て、我々の力強いパートナーである HONDA NCX (N.C.X Co., Ltd) から案内を受け、初めてこの建物に訪れたのを思い出します。我々はここから、HONDA のお客様にオートバイファイナンスのサービスを提供して参ります。将来はより多くのサービスをこの国のお客様に提供することになるでしょう。

当社がどのようにして現在に至ったか、また少し私自身のことをお話させてください。私は30歳まで、現役のテニスプレーヤーでした。私の秘書の伊藤幸士、COO である石神理貴も同じくテニスプレーヤーでした。我々は毎日テニスをしていましたが、テニスで成功することはありませんでした。そして私は幸運にもビジネスを始めることになりました。

1997年アジア経済危機が発生した際、我々はタイやマレーシア、そのほかのアジア各国で発生した不良債権処理を行うチャンスを得て、各国にわたりました。その後約15年、ファイナンスや投資、時には企業買収を行ってきました。ASEAN 各国では30以上の企業を買収してきています。今後、カンボジアはAEC(ASEAN 経済共同体)の開始にあたって、ASEAN の市場が一層開かれ、アジアのみならず世界の企業、とりわけ日本企業にも、市場の門戸が開かれることとなります。今後我々はASEAN 各国の経済発展を目にすることでしょう。かつて10年から20年前、ASEAN の国々は製品を製造し、欧米や日本に輸出するためのコストの安い国でとしか考えられていませんでした。

しかし現在、ASEAN 地域の非常に多くの人々が、消費者として捉えられるようになりました。経済力が上がり、かつてとは大きく異なります。だからこそ我々は積極的に考え、このカンボジアに訪れ、自分の目で見ることにしたのです。

カンボジアは、海外からの投資家にとり、数ある中でも最も可能性があり、有望な国であると思います。多くの産業において、この国は豊かな資源に恵まれているのです。ただ私がどれほどこの国のことを気に入っているか、もう話したすととまらなくなりますから、ここでは控えることとさせていただきます。もっとも、AEC が始まるとどうなるなど、そもそも私のお話しする内容ではないですね。ここにいらっしゃるチャム・プラシッド大臣閣下には是非お話いただければと思います。

私個人の過去を紐解くと、私は1998年にプノンペンに訪れています。ちょうど内戦集結の1年後でした。当時の街は現在のように平和ではなく、多くの人から本当に、本当に危険だといわれ17時以降に外出は出来ませんでした。道路も舗装されていません。クルマもオートバイも、ナンバープレートなしで走っていました。私は、この地のクルマに、特にオートバイにナンバープレートがつくのを待っていました。実際、この地の経済発展は非常に早く、いまや全てのクルマもオートバイもナンバープレートがついています。

初めてこの地に訪れてから2011年まで12、3年もの間、私はこの国が大好きだったにも関わらずビジネスを始められずにいました。その一方、私はクメールやカンボジアの歴史も大好きです。シエムリアップ

にも何度も行き、アンコール・ワットは10年間に20度ほど訪れています。かつて世界最大の国家を作ったこの国は非常に高い生活水準を保っていたことがアンコール・ワットの彫刻からも知ることができます。

私は登山もよくいきます。日本の富士山、ヨーロッパの山々、アジアではヒマラヤとすばらしい山がありますが、私が最も好きな山には、プノン・クレン（シエムリアップにある有名な山）もあります。（※観客から拍手が沸き起こる）

今年も私は秘書の伊藤幸士とプノン・クレンにのぼりました。あの山はまだ開発がすすんでおらず、道は非常に狭く、クルマでは入れません。登るに従って非常に滑りやすくなりますが、我々は危険に思うことはありませんでした。なぜでしょう？我々は世界で最も信頼できるオートバイである HONDA Dream に乗っていたからです。

（カンボジア語で）

まだ上手ではありませんが、カンボジア語で少しだけお話しします。私はこの国を愛しておりこの地で永遠に暮らしたいとさえ思っています。十分にしゃべれず残念ですが。

チャム・プラシッド大臣閣下、篠原前大使そして多くの来場の皆様につたない発音では在りますがカンボジアの祝福の言葉をお送りします。お聞きください。

（カンボジア語の仏教徒の言葉で）

皆様の幸せをお祈り申し上げます。

◆ チャム・プラシッド大臣閣下のスピーチ

まず、こちらに来席の篠原様、フイ様、そして此下さんと来場の皆様に敬意を表したいと思います。本日、今後この国において非常に重要な金融サービスを提供する GLF の開業を記念した式典に出席する機会を頂けたことを大変嬉しく思っています。

Mr.此下は、1998年にこの国にはじめて来られました。1997年の武力紛争があり今後が懸念されていた当時は、多くの投資家がこの国の政治情勢を懸念し、投資を見送っていました。その中で当時の彼はすでにこの国でのビジネスに興味を持っていたようです。私もまた、いずれ日本企業が必ずこの国に来て事業を広げてくれると、信じていました。

その後、カンボジア国内は、利水・灌漑などを始めとし開発が進み、フン・セン首相の賢明な方針と指導力のもと、政治的にも安定が訪れました。

Mr.此下はカンボジアだけでなく、タイや他の国々でも事業を持っています。では、一体なぜ今、我々の国、カンボジアに投資できたのでしょうか？私は、カンボジアの政治的・経済的環境の中で、ご自身に確信があったのだと考えています。

日本人は海外に進出する前にその国を徹底的に調査します。時には3、4年も掛かることもあるでしょう。先ほどご本人からの話にもあったように、Mr.此下はカンボジアの情勢を注意深く見守ってこられました。もしこの国の市場が開かれていなければMr.此下はこの国に投資することはなかったでしょう。1998年から現在に至ってはじめてその機が熟したのです。この地に GL FINANCE PLC.が立ち上がったことを心から嬉しく思います。

現在に至るまで GLF は 11 の拠点をプノンペンに持っていますが、来年には全国で 36 の拠点を持つことになるでしょう。事業開始時期からまだわずかな期間であることを思えば、非常に早い成長を遂げる会社であることがわかります。

さて、この会社はこの国と人々に何をもたらすのでしょうか？

この国には十分な輸送手段を持つための資金を持たない人々が多くあります。例えば、商売で鶏や豚、アヒルなどさまざまな商品を運ぶ人々、職場に通勤する人々、彼らのほとんどはオートバイが必要です。しかし、多くの場合でその資金が無いのです。

高品質で信頼性が高いと誰もが認める HONDA のオートバイも、1000 ドルを超えてしまうように決して安くはありません。彼らがオートバイを保有するため、一体なにができるのでしょうか？

GL FINANCE PLC.は、安定した収入を持ちながら未だ購入資金が足りない人々に、オートバイを手に入れる道を開くものです。購入者の生活環境を確認できれば、GLF は新車代金の 30%の頭金だけでオートバイを買う資金をファイナンスしてくれます。これは非常によいサービスです。後日払う利子には、どうやって支払うのでしょうか。ローンは2から3年の期間で返済しますが、そこに利子が加算されるわけです。

このファイナンスの導入をカンボジアで初めて行う HONDA はカンボジアでの販売を少なくとも 20~30%は伸ばすことができることでしょ。

HONDA はこの国に工場を持つだけでなく高い技術サービスのネットワークをもちます。そもそも HONDA はオートバイのブランドとして高い人気と品質を誇ります。信頼できるパートナーとして、GLF が彼らを選んだのは当然です。そのようにして日本からの 2 つの企業がここで協力していくことになりました。

カンボジアにおいてこの 2 つの企業が協力することで、より多くの人々がオートバイを購入するようになることは、この国の経済を力強く加速させるでしょう。

私はオートバイの需要が年 20%~30%増加すると見えています。その予測は HONDA のオートバイを正規ディーラーで 1000 ドルから 1200 ドルで買う場合を想定していますが、オートバイを買う顧客がそもそも今後増加するであろうことから、十分理解できる数字といえることでしょ。

私個人としては、政府がこのサービスを奨励することで、資金のない人々の生活が改善することを期待

しています。人々が自らの移動手段を持つことで、生産と移動のコストが下がり、人々の仕事は大きく拡大すると私は考えています。生産と販売の増加、それこそがこの国の経済を最終的に加速させるのです。

このサービスは、わが国の経済全体からみると、ほんのささやかなものに見えるかも知れません。しかしこの国の国民が貧困から脱する方法であると私個人が考えるだけでなく、カンボジア王国の総理大臣であるフン・セン首相に率いられた政府の方針にも呼応するものなのです。戦いを超えてこの国に平和をもたらしたフン・セン首相は、同時にこの国の貧困とも戦ってこられました。この点からも、私はカンボジアにはじめてのファイナンシャルリースサービスを持ち込み、この国の貧困を減らすべく政府の力になってくれることに感謝します。Mr.此下が自らの時間を割き、精力的にカンボジアへの投資を続けていることにもお礼を申し上げるものです。

商務大臣である私がなぜこのファイナンスサービスをここまでよく知っているのか、皆さんは不思議かも知れません。彼がメインスポンサーを行うカンボジアテニス協会のイベントでゴルフとテニスをしたことからでした。

Mr.此下がこの地にいることで、事業が始まり、オートバイファイナンスの形を通じて提供する資金が、ビジネスセクターの成長を引き上げることが、この国にとり非常に重要だと私は考えています。つまりはGLFが投じる資金は、実質に新たなビジネスの開業資金となるのです。例えばオートバイタクシーの資金になり、この国の経済をより活性化するのです。この点、商務大臣である私もこの場にできるべきと考えたのです。この場にて、GL FINANCE PLC.と HONDA N.C.X Co., Ltd というカンボジアの会社を通じた2つの日本の会社の結びつきを知ることとなり、皆さんによりお知らせが出来るようにしました。この2つの会社が結びつき、彼らの商品がカンボジアの人々を助けることでしょう。カンボジア政府を代表し、特にフン・セン首相に代わり、Mr.此下にこのファイナンス事業の立ち上げをここまで早く進めてこられたことに強く感謝いたします。数分間で書類を記入するだけでオートバイを手に入れ、妻の待つ家まで帰る。なんて便利なことでしょうか。若者が仕事のあと恋人をオートバイに乗せてデートする。素晴らしいですね。最も、返済するお金がなくならないようには気をつけないといけません。それさえなければ、これは現金が無くてオートバイが買えないこの国の人々にとって最高の機会となります

ここにいる皆さんと同じく、本日のイベントを大変楽しませていただきました。此下 CEO にはこの意義あるイベントをここにいるわれわれの同僚ともども行っていただいたことにお礼を申し上げます。

今回のことはホンダのオートバイを扱うディーラーの皆さんにも大きなチャンスといえるでしょう。この新しい事業は常に利益を生み出し、皆さんが懸念するように損を気にする必要はないでしょう。オートバイに詳しくはありませんが、売り上げには非常に大きな貢献となるはずで

今後も GL ファイナンスとそのグループ会社と、Honda NCX が一層繁栄してよい商品を提供し続けてくださること、そしてご来場の皆さんに御仏の守りがありますようお祈りいたします。